

自立活動における指導内容設定表(2019後期)

所属	中学部 ●年	氏名	附属 太郎
プロフィール	診断名	自閉症	
	アセスメント結果	太田のStage評価: Stage III-1 (令和元年5月実施) S-M社会生活能力検査: 社会生活年齢4歳10ヶ月 (令和元年8月実施)	
	障がいの程度・状態等	他者から強い口調で禁止されたり注意を受けたりすると、情緒が不安定になり、人に手を出してしまうことがある。	
	事例の概要	友達や教員との関わりを受け入れて、落ち着いて集団活動に取り組むことを目指した指導	

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について情報収集
<ul style="list-style-type: none"> 健康状態は良好で、休まずに登校することができている。 急な予定の変更や、自分の考えていた予定と異なった場面では、落ち着きをなくし自傷行為や他傷行為が見られる。 行動を制限されると、人にものを投げる、たたくなどの行為が見られる。 身体に触れられることをいやがる。 人との関わりを楽しむ様子があまり見られず、一人で活動することが多い。 人の泣き声や大きな音に対して敏感で、耳をふさぐことがある。 ピースをひもに通す、刺し子作業に取り組むなど、細かな作業を好む。



②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
健康状態は良好で、休まずに登校することができている。	急な予定の変更や、自分の考えていた予定と異なった場面では、落ち着きをなくし自傷行為や他傷行為が見られる。	集団での活動になると、落ち着かない様子が見られ、離席したり、教室から飛び出そうとしたりすることがある。	身体に触れられることをいやがる。	ピースをひもに通す、刺し子作業に取り組むなど、細かな作業を好む。	絵カードの理解はできるが、自分の思いを伝えることが難しい。



②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりを楽しむ様子が見られにくい。泣き声や大きな音に敏感な様子が見られ、集団活動になると落ち着かない様子が見られる。(人、環) 急な予定の変更や、自分の考えていた予定と異なった場面では、落ち着きをなくし自傷行為や他傷行為が見られる。イラストを用いた指示は理解しやすい。(心、環) 行動を制限されたり禁止されたりすると、ものを投げる、人をたたくことがある。落ち着くまではしばらく一人になれる環境で座って過ごすことができ、落ち着いてからイラストを提示すると理解して次の活動に移りやすい。(心、環、コ)



各項目の末尾に()をつけて②-1における自立活動の区分を示す
②-3 収集した情報(①)を〇〇年後の姿の観点から整理する段階
<ul style="list-style-type: none"> 様々な人からの関わりを受け入れて、活動に取り組めるようになってほしい。 集団活動に落ち着いて参加できるようになってほしい。 働く体験や就業体験等、様々な行事に見通しを持って取り組めるようになってほしい。



③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> 身体に触れられることに抵抗がある。(心・人・環) 集団活動に落ち着いて参加することが難しい。(心・人・環) 人との関わりを楽しむことは現時点では難しい。(心・人)



④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> 対人関係の構築や集団活動への参加の難しさの根幹には、身体に触れられることを受け入れることの難しさがあるのではないかと考える。自分の身体のイメージや身体を意図的に動かす力の弱さがある反面、一人でできる細かな作業を好むため、一人でできる活動をより好んでしまう傾向があると考える。 人との関わりを楽しむことの困難さが、集団活動の場面や、行動を制限されたり否定されたりした時に、情緒が不安定になりやすい原因であることが考えられる。教員が本人の意図をくみとり、安心して関わり、活動することを重ねていくことを通して、安心して教員と関わりを楽しむことに繋がるのではないかと。



⑤ ④に基づき設定した指導目標(わらい)を記す段階 指導目標(半期単位)	
課題同士の関係を整理する中で今指導すべき指導目標として	<ul style="list-style-type: none"> 活動を称賛する際に、ハイタッチなど身体に触れる活動を取り入れることを通して、身体に触れられることに慣れることができる。 絵カードを用いて、教員に自分のしたい活動を伝えることができる。 集団活動の中で、自分の役割を果たすことを通して、成就感や達成感を高める。



⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1), (2)	(2), (3), (4)	(2)		(1)



⑦ 項目と項目を関連づける際のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <他者から身体に触れられることに慣れるために>(心)(1),(人)(2),(環)(2),(コ)(1)を関連付けて設定した指導目標が①である。 <安心した人間関係を築くために>(心)(1),(人)(2),(コ)(1)を関連付けて設定した指導目標が②である。 <集団の中で自分の役割を果たすことができるために>(心)(2),(人)(3)(4),(コ)(1)を関連付けて設定した指導目標が③である。



⑧ 具体的な指導内容を設定する段階		
⑨ 具体的な指導場面を設定する段階		
①具体的な指導目標	②具体的な指導目標	③具体的な指導目標
活動を称賛する際に、ハイタッチなど身体に触れる活動を取り入れることを通して、身体に触れられることに慣れることができる。	絵カードを用いて、教員に自分の取り組みたい活動を伝えることができる。	集団活動の中で、自分の役割を果たすことができる。
指導の手立て	指導の手立て	指導の手立て
褒める際には、言葉と一緒に教員が手のひらを目線の高さに出し、本人にハイタッチを促すようにする。	はじめのうちは、教員と1対1で取り組む。	流れ作業の中で、本人が得意な活動(ピース通し)を取り入れて、集団内で重要な役割を果たせるようにする。
ハイタッチが賞賛されている時にする行動であることを理解できるように、繰り返し取り組む。	絵カードに本人の好きな活動を2種類入れておく。2種類の中から本人がしたい活動を選択して教員に伝えられるよう、指さしや言葉かけをして絵カードを教員に手渡すよう促す。	活動に取り組めたときには、トークンを用いてポイントがたまるようにして、視覚的にできたことが理解できるようにする。
指導場面	指導場面	指導場面
自立活動の時間における指導	自立活動の時間における指導	日常生活の指導 生活単元学習 作業学習
指導結果・評価	指導結果・評価	指導結果・評価
はじめのうちはハイタッチをいやがる場面も見られたが、称賛の言葉と一緒に手を合わせることで理解できると、自分から手を出してハイタッチをしていく場面が増えてきた。	自分のしたい活動を選択し、教員に伝えることができるようになってきた。教員が離れた場所にいるときも、近くまで来て絵カードを手渡して要求を伝える場面も見られた。	本人の得意な活動を通して、集団の中でも落ち着いて活動できる時間が増え、役割を果たすことができている。落ち着かない場面も見られたが、休憩を挟むことで活動に戻ってくる機会が増えてきた。
般化場面	般化場面	般化場面
教育活動全般	教育活動全般	教育活動全般
般化場面における評価	般化場面における評価	般化場面における評価
国語や数学の個別学習の際にも、問題ができた際にハイタッチができる等、身体に触れられることに慣れてきた場面が増えた。	作業学習でも、絵カードを使って取り組みたい作業を教員に伝えることができるようになった。	職業・家庭の時間に、グループで調理に取り組む際に材料を混ぜるなど得意な活動を取り入れたことで、グループ内で自分の役割に取り組む、落ち着いて活動することができた。